

# 書塾の仲間たち

第 237 回

## あさよし 朝佳会（東京都江戸川区）

高 中 大 学 年 段 級 秀 級	小 学 年 段 級 秀 級
縄文時代に定住が進むと、四季の恵みを貯蔵したり保存食にしたりして、計画的に利用するようになつた。	
楓本 あい	

# 旅行

小五

楓本  
蒼

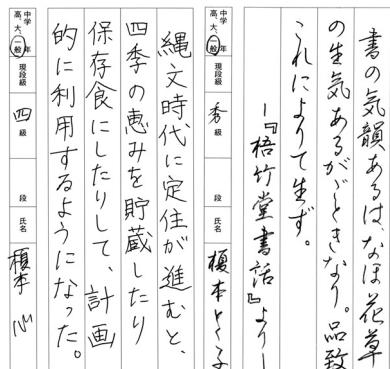
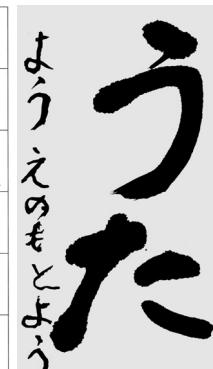
学年 小三・小四 段級 三級上	姓名 楓本 蒼
対を上回つたり、賛成が反対をとり、賛成が反	学級会で多數決
ておいしかった。消のメニューバーが出た。	小四
昼食に、地産地	楓本 胡太郎
た。地産地	元気



学年 小三・小五 段級 六級上	姓名 楓本 胡太郎
ておいしかった。消のメニューバーが出た。	成果
昼食に、地産地	
た。地産地	



学年 幼 小一・小二 段級 級	姓名 楓本 佳香
遊びをせんとや生まれけれども遊びをせんとや生まれけれども	うみべ



朝佳会

益々精進せねば、と考える今日この頃です。  
いつまで続けられるやら。「美しい文字にして、苦労をおかけしています。」  
「あさよし」は北海道在住なので大変です。硬筆は添削指導、毛筆は現地在住の親友に指導を依頼して、触れる機会」をばあばからの贈り物にしたい。

楓本とく子

先ず「朝佳会」について申し上げますと、私たちは外から生徒さんを受け入れている一般的な書塾ではございません。その上で、このような形で書写書道に親しんで学ぶ仲間もいることを知っています。

朝佳会は二〇一九年十月に誕生しました。私の初孫が小学二年の時で、彼の書く漢字の筆順がめちゃくちゃだったことに驚いたのがきっかけです。実は、朝佳会は身内のためにはじめた書塾なのです。

私自身は二〇〇〇年五月に書を習い始めました。きっかけは月一回、出張指導してくれた師との出会いでした。当初は知人宅で一緒に稽古を続け、師の導きで二〇〇九年に月刊「書写道」とのご縁を得ました。

とにかく多忙な頃で月一回の課題提出がやつとでしたが、師は諦めず丁寧に指導してくださいました。六段の受験に挑戦していた時に孫の書く字に出会い、すぐに孫と一緒に「書写道」へ競書出品することを決めました。

会の名は当時八歳、七歳、二歳、一歳の孫たちの名前の頭文字を取って、いずれ全員参加させるつもりで「朝佳会」と名付けました。

「あさ」は夫の誕生日である「十月十日」を組み合わせて「朝」を当てました。嬉しいことに彼らの母親と伯父も硬筆で参加し、毎月の提出を欠かしません。楽しいのは彼女ら三人の名の頭文字も、「あ」と「よ」と「し」で合っています。「あ、よ」は近所に住居があるので我が家に来て書いています。「さ、し」は北海道在住なので大変です。硬筆は添削指導、毛筆は現地在住の親友に指導を依頼して、苦労をおかけしています。

●書塾からひとこと●

ぼくは、字を書くことがとてもが手で、学校のたんにんの先生から、もう少しがんばるようになつてもらいました。そんな時、こうひつ教室にいっしょに通つてみないか、とお母さんにさそされました。ぼくは字をきれいに書きたいと思い、四月から通うことにしました。

はじめは、じっとすわっていることができませんでした。しゅうちゅうして書くとつかれて、いくらがんばっても、わくからはみ出したり、線がまがつたり、うまく書けませんでした。でも、あきらめないで、お手本の字をよく見て考えて書けば、形よく書けることに気づきました。

だんだん上手になつて、九月に学校で作文を書いた時に、「長い文しようとをさいごまできれいに書けたね、字が上手になつたね。」と、たんにんの先生にほめてもらいました。すごくうれしかったです。こうひつをならつていてよかったです。

これからも、えんぴつのもち方やせいい、字の形や間のとり方、線のほうこうに気をつけて、一回で花丸をもらえるようにもつとがんばります。

この前、福島光雲先生が、「道」という字がつくならないごとでは、ぎじゅつを高める気持ち、しんけんにとり組む気持ちを自分自身でそだてることがだいじだと教えてくれました。ぼくは、はじめる前に目をとじて、しづかにしんこきゅうをしてからとり組んでいます。

目をとじて、しづかにしんこきゅうをしてからとり組んでいます

東京都葛飾区立柴又小学校二年 戸室 日陽



学年	小四・小五
現段級	
級	
氏名	沖野 未空

美しい文字でたくさん的人に手紙を書きたいな

東京都葛飾区立鎌倉小学校三年 沖野 未空



わたしには、三才年上のいとこのお兄ちゃんがいます。いとこから手紙をもらった時に、すごくきれいで大人みたいな字にびっくりしました。お母さんに聞いたたら、こう筆を習っているんだよ、と言つっていました。きれいな字の手紙をもらうと、心がこもっているように思うし、何度も読みたくなります。わたしも、手紙をもらった人がこんな気持ちになれる文字を書きたいと思って、こう筆教室へ通い始めました。

わたしの通うこう筆教室は、お寺のお堂がお稽古場です。初めは、お寺のおき物やかざりがこわくてきんちょうしたり、たたみで正さをして書くことにつかれて字が曲がったり、しつばいすることが多かったです。けれど、毎週通ううちに少しずつなれてきて、全員が集中した時にお部屋がシンとなる時間がすごく好きになりました。

お手本を見て書くのは、まだまだむずかしいですが、先生が「この字はこうやって生まれたんだよ。」と、ひとつづつ教えてくれるのが楽しいです。

とくに、「ゆ」という文字はいつも上手に書けず苦手でしたが、漢字の「由」から生まれた、と教わってからすごく書きやすくなりました。

これからも、一文字一文字ていねいに書くことをわすれずに、きれいな文字を書けるようになりたいです。そして、たくさんの人に手紙を書いて、受けとった人がわたしと同じようなあたたかい気持ちになってくれたらうれしいです。

## 私と書写書道 第237回